

2025 年整備連安全アンケート（内航 JAL 系）資料

2025 年 8 月 2 日 航空連 整備連絡会

実施期間 JAL 系 1 月 1 日～1 月 31 日

その他 1 月 1 日～2 月 28 日

アンケートの実施について、2024 年からは Web アンケートにより実施しました。
結果は JAL 系からの回答のみとなりました。外航からの回答も 17 件ありました。

I 基礎項目（職種、経験年数、勤務）

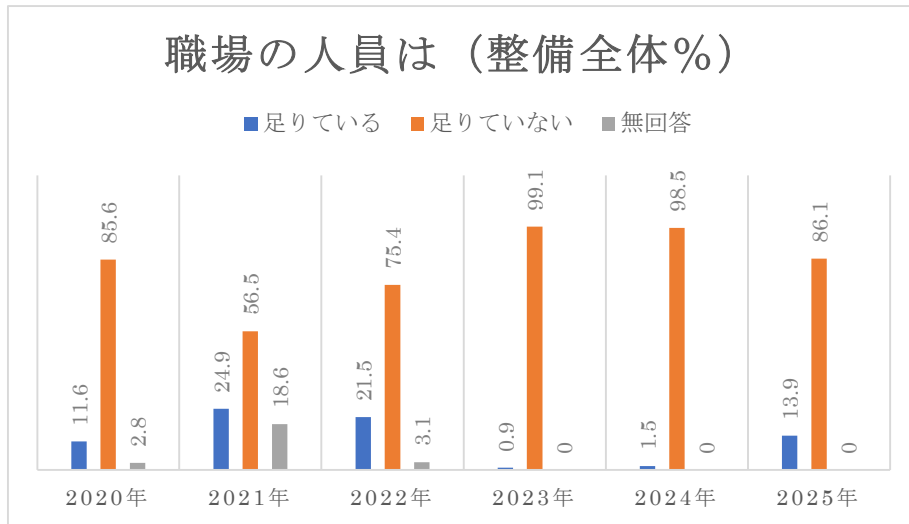
・回収数 全体 202 (2024 年 全体 203)

2025年勤務・経験 職種	勤務			合計	経験年数			
	日勤	2交代	3交代		5年未満	5～10年	10～20年	20年以上
ライン整備 (%)	0 0.0%	111 72.1%	43 27.9%	154 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	154 100.0%
ドック整備 (%)	0 0.0%	24 68.6%	11 31.4%	35 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	34 97.1%
ショップ整備 (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
スタッフ部門 (%)	6 46.2%	4 30.8%	3 23.1%	13 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	12 92.3%
合計 (%)	6 3.0%	139 68.8%	57 28.2%	202 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.0%	200 99.0%

Ⅱ この１年間で職場の変化について

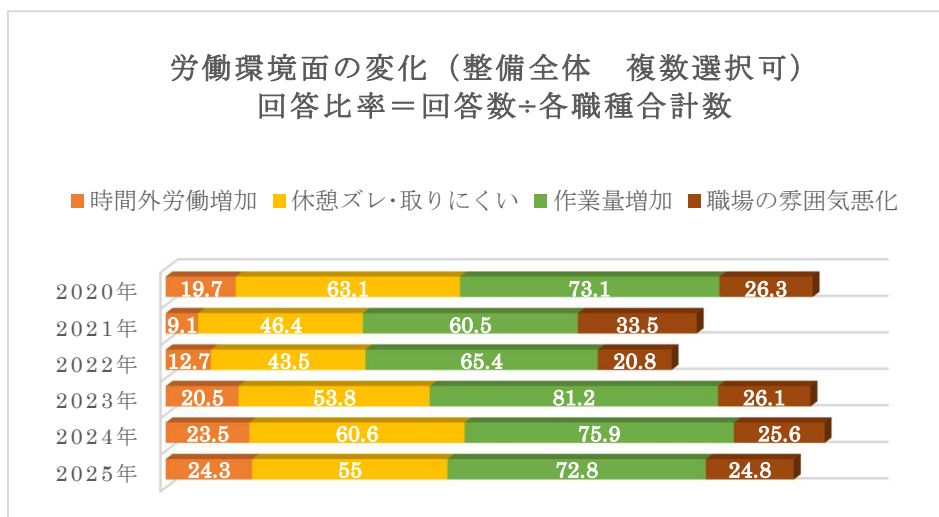
1. 職場の人員は

- ・86.1%の人が足りないと回答しています。コロナ以降急激な増便に、対応する人員が足りていないと思われます。



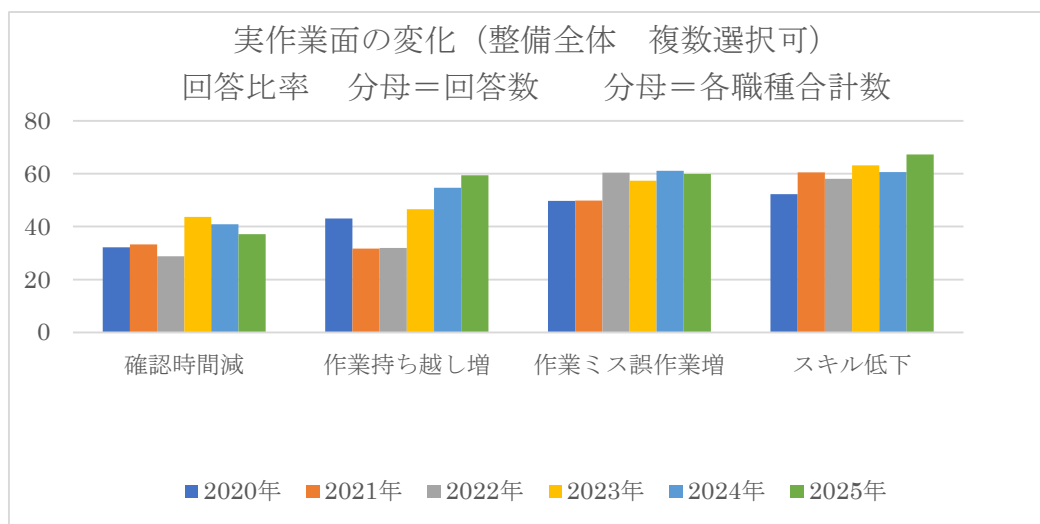
2. 労働環境面の変化

- ・世界的な部品供給不足と A350、ERJ の特殊な整備器材不足によって、作業量の増加や休憩時間に影響が出ていると思われます。
- ・依然として「休憩ズレ・取りにくい」「作業量増加」が高い傾向にあります。これは、人員不足によるものと考えられます。



3. 職場の実作業面の変化

- 品質面での改善がみられますが、部品不足による作業持ち越し増が増えています。
- 作業ミス誤作業増については、やり直し作業による、余計な整備作業が行われている現状が見られます。
- スキルの低下については、増加しています、熟練者の定年退職により技術の伝承や、育成が思わしくない状況にあると考えられます。

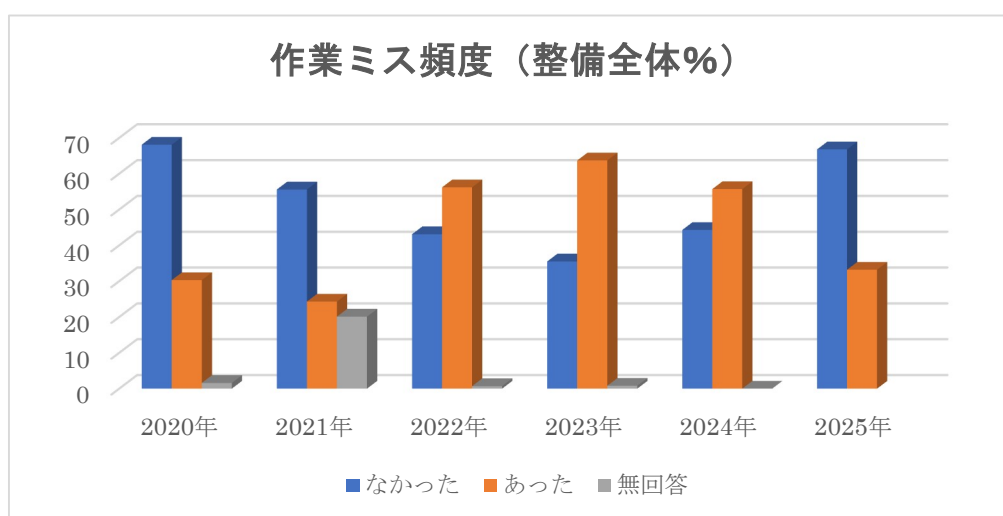


Ⅲ. この１年間で起こった作業ミスについて

1. この１年間、あなた又はあなたの周りで作業ミスがありましたか？

*ただし、2021年まで設問は「この１年間、あなたは作業ミスがありましたか？」

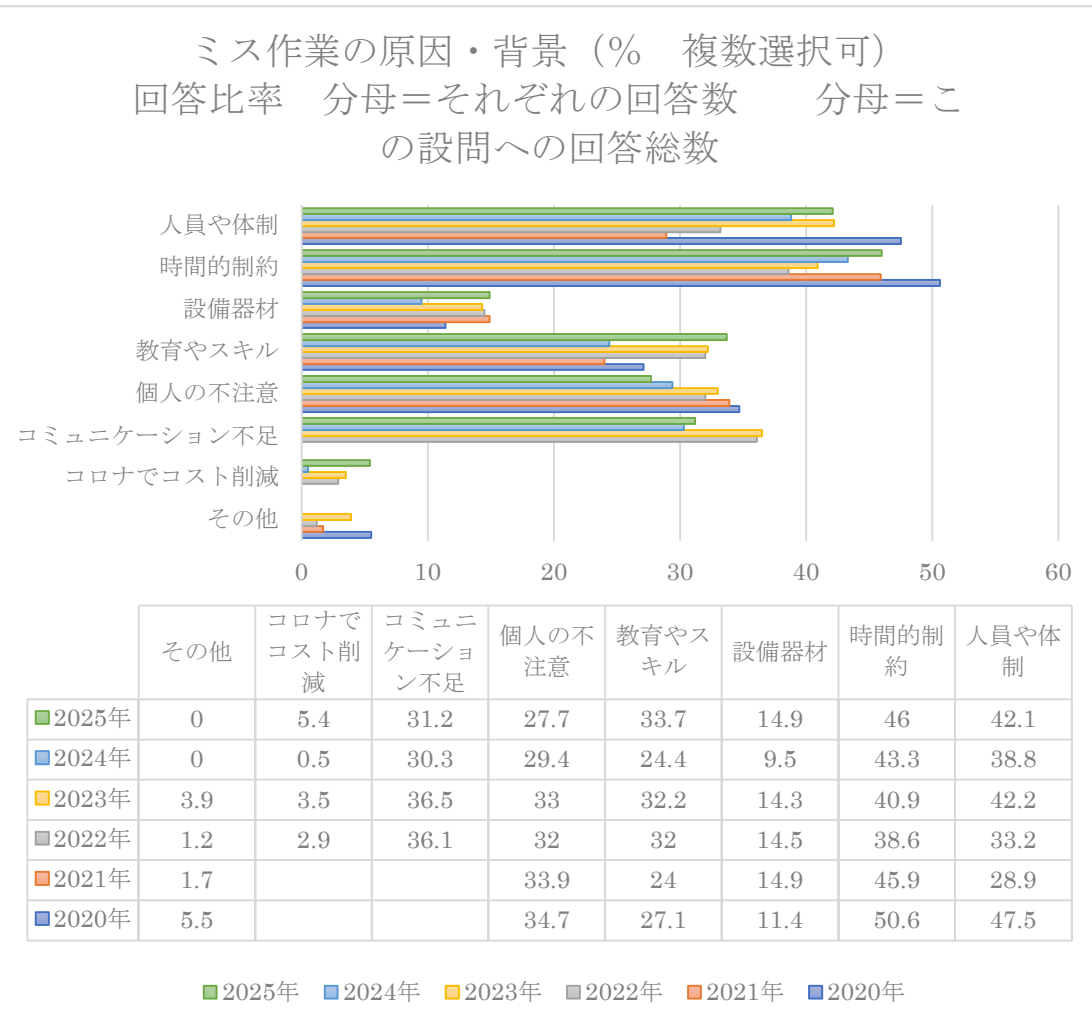
- 作業ミスについては減少していますが、作業ミスの修復作業に時間がかかっているものと思われます。



2. ミスの原因・背景要因（複数選択可能）

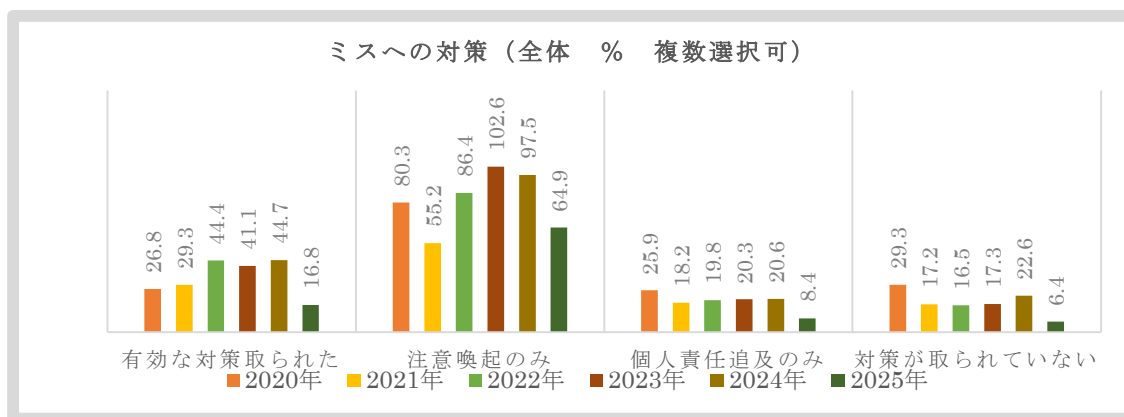
2022 年から追加2項目「コミュニケーション不足」「コロナでコスト削減」

- ・「時間的制約」が増加傾向にあり、人員不足の中で、短時間に成果を求められている状況が考えられます。
- ・「設備器材」によるミスが増加しているのは、適正な設備器材の配備が少なく、故障や修理が必要な器材を使わなくてはならない状況があります。
- ・「人員・体制」については高くなっていて、それぞれの部署で人が足りない状況がうかがえます。



2. ミスの対策は、

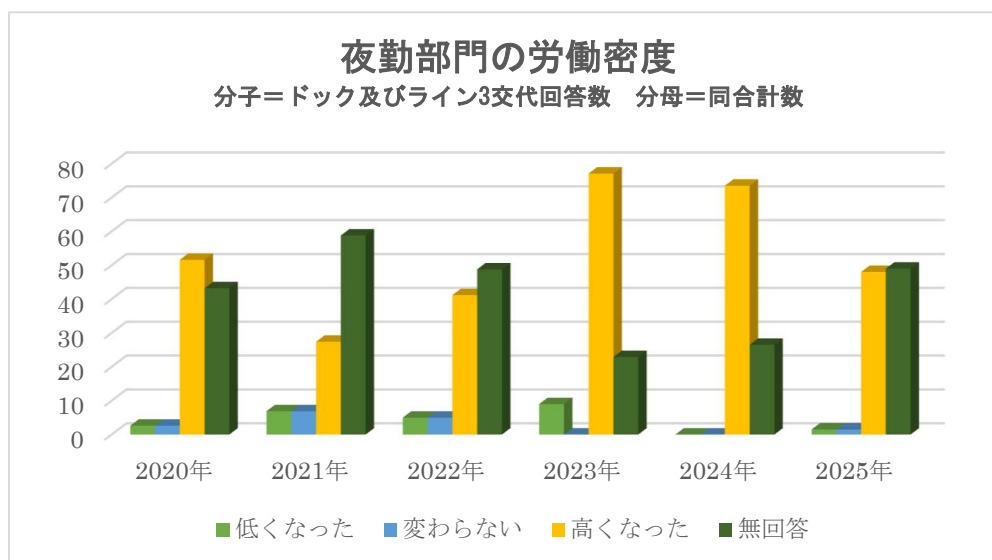
- すべての項目で減少しています。航空局からの嚴重注意を受けた事により、会社としても対策について、真摯に取り組んだ結果がアンケートに反映されていると思われます。



IV. 夜勤の労働条件について

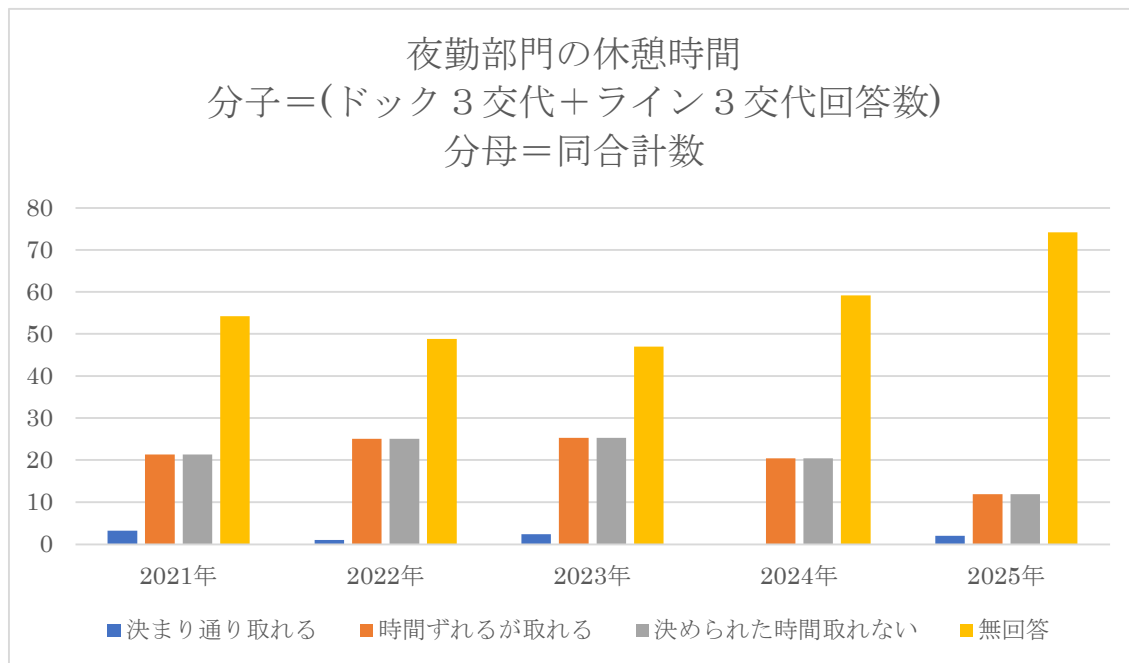
1. この1年の夜勤の労働密度について

- 「高くなった」が減少していますが、約半数の人が前年よりも高いと回答しています。
- 「無回答」が多くなっています。



2. 夜勤時間帯の休憩時間について

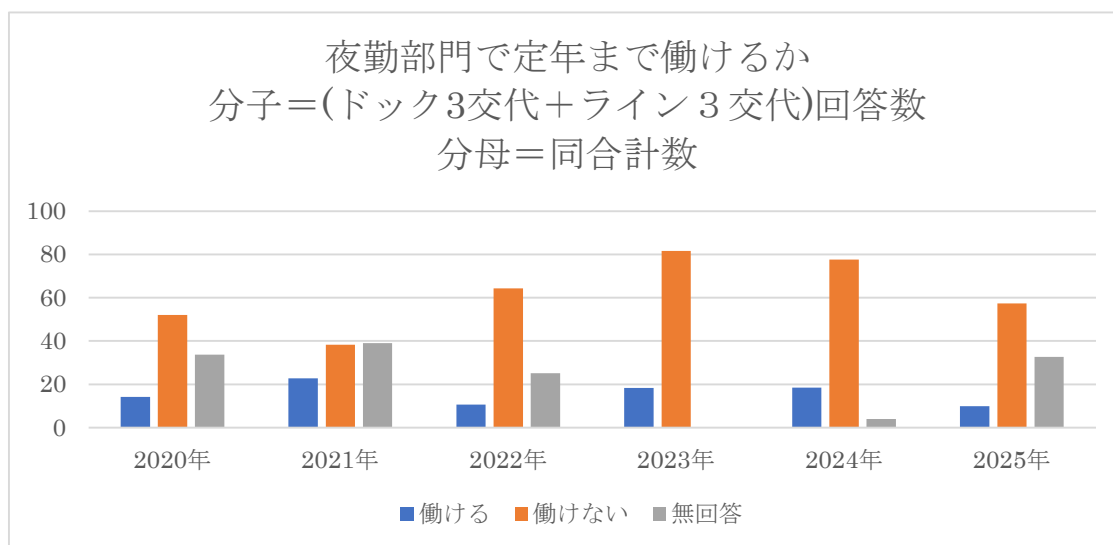
- ・「決まり通り取れる」が少ない状況はわかりません。スタンバイの航空機がない時があり、作業に余裕がないと考えられます。



3. 夜勤職場で定年まであるいは雇用延長後も働けるか

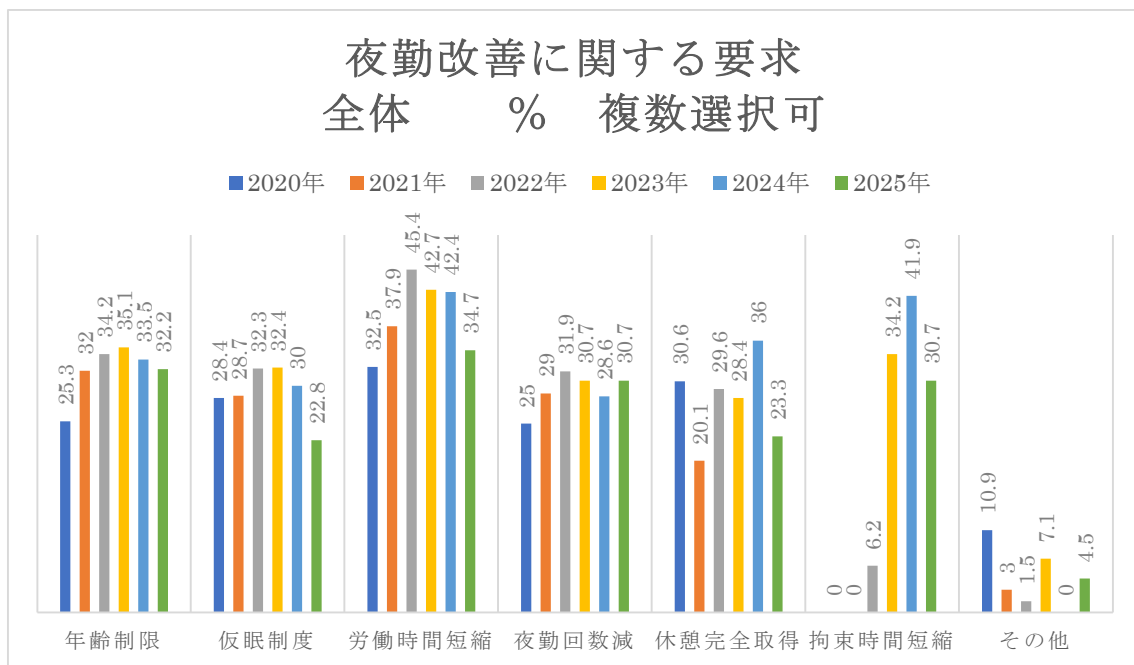
2022年～設問変更 「定年まで」→「定年まであるいは雇用延長後も」

- ・「働けない」が減少していますが、「無回答」が増えています。
- ・「無回答」はアンケートの回答者が定年を過ぎた60才以上の人が含まれている事が考えられます。



4. 夜勤に関する改善要求（複数選択）

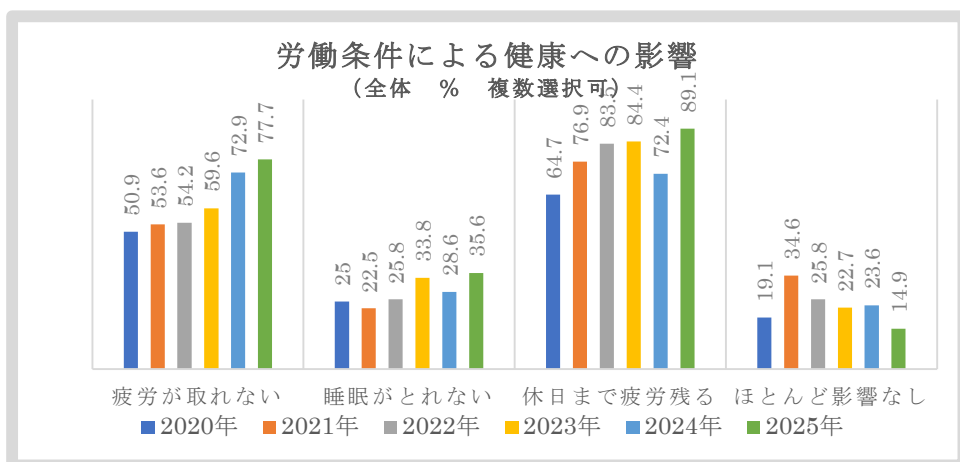
- 「夜勤回数減」が増えています。夜勤改善に対する声にバラツキはあるものの、根強くあります。60才以上のシニア層が増えてきているので、夜勤の改善は切実なものとなっています。



V. 疲労と健康について

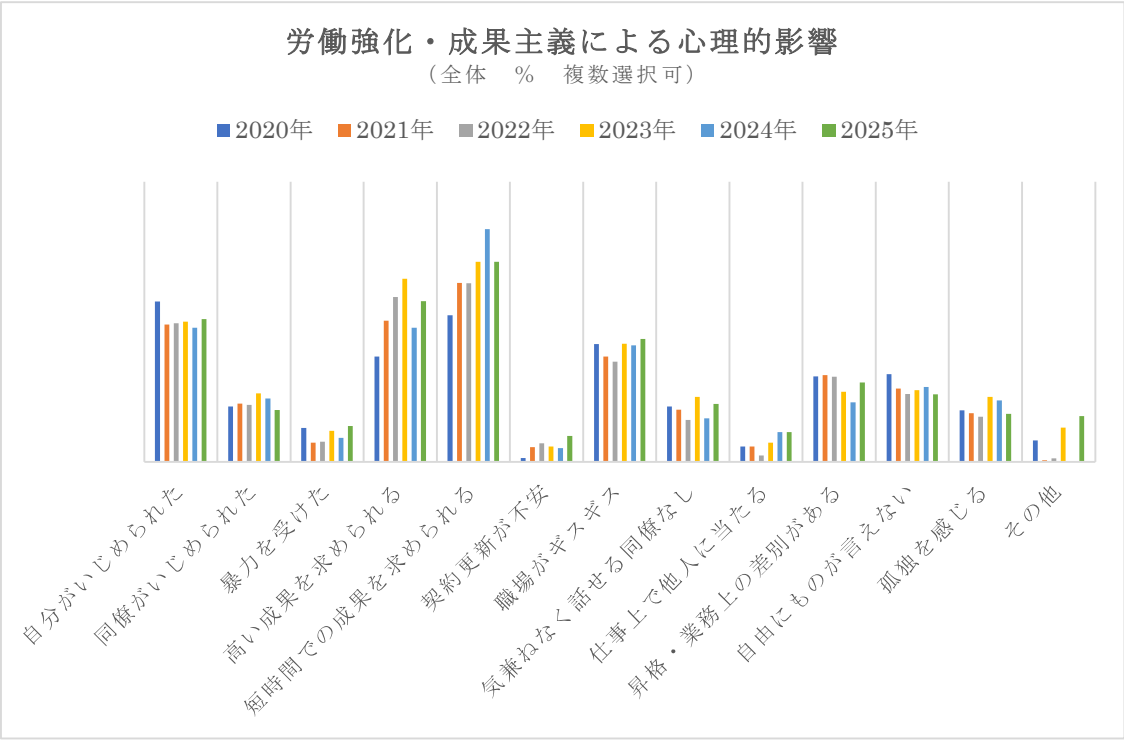
1. 現状の勤務による健康への影響（複数選択可）

- 「ほとんど影響なし」が減って「疲労が取れない」「睡眠が取れない」「休日まで疲労が残る」について増加しています。導入が検討されている「整備職への疲労リスク管理」の研究など、労働者の健康、航空機の安全を守る観点から、取り組みが求められています。



2. 労働強化・成果主義の心理的影響（複数選択可）

- 労働強化・成果主義の心理的影響については、「高い成果を求められる」「短時間での成果を求められる」が高く、注視が必要です。
- 「いじめられた」や「職場がギスギス」「業務上の差別がある」「自由にものが言えない」も一程度の比率であることは、資格・能力に重点を置いた人事制度や人権問題として見過ごしてはならない、といえます。



以上